



# 花さき山



タイトル文字：滝平二郎

## 映画会

### 「リトル・エッラ」

(上映時間 81 分・字幕)

日時：3 月 15 日 (日)

① 10:00～ ② 14:00～

場所：明野図書館 視聴覚室

事前申し込み不要です。

※2 回とも内容は同じです。

## お誕生日おはなし会

日時：3 月 28 日 (土)

11:00～

一緒に簡単な工作をしませんか？  
読み聞かせもあるよ。

※事前申し込み不要です。

育児コンシェルジュによるおはなし会

毎週土曜日

11:00～11:30

【育児コンシェルジュ】

10:00～14:30

## ぬいぐるみハント

かくれたぬいぐるみたちをみつけよう！

期間：3 月 1 日 (日)～3 月 29 日 (日)

午前 9 時～午後 5 時

場所：明野図書館

対象：0 歳～12 歳 (1 人 1 回まで)

申込：事前申し込み不要。

期間中、カウンターへお越し  
ください。

## 3 月の特集コーナー

### 「春」

春をイメージして  
本を集めました。

ぜひ、ご来館の際は  
お立ち寄りください。



## ★クイズに挑戦！！★

### 【今月の問題】

菱餅の色の意味は？

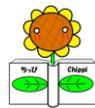


※答えが待ちきれない方は→  
前月号の答えは「ヴァレンティヌス司教の殉  
教伝説から」でした。

## ○明野図書館カレンダー○

2026 年 3 月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■：休館日



## 「黒沢西蔵と足尾銅山鉍毒事件」

島田 昌志

黒沢西蔵（以下西蔵）は、明治18年（1885年）3月、久慈郡世矢村（現常陸太田市）の生れで、後に酪農義塾（現酪農学院大学）、北海道製酪販売組合（現雪印メグミルク）を設立した人である。

明治28年3月に尋常小学校4年を卒業、家業の農業に従事すると共に、「涯水義塾」において「知行合一」の精神を学んだ。

明治32年（1899年）6月に上京し、給仕を経て正則英語学校に学び、明治34年（1901年）春からは京北中学に学んでいた。そんな中、同年12月12日の朝、新聞を見て田中正造（以下正造）に「是非、会いたい」との気持ちが溢れ、越中屋を訪ねた。紹介状とてない一少年を快く迎え入れてくれ、事件の真相や経緯を理路整然と説明する正造に、正義感と切々たる人間愛を痛烈に感じた。これが正造との出会いであった。

正造から、内村鑑三を団長とする「災害地学生視察団」への参加を促され、同年12月27日、約千五百人の大視察団の一員として、草鞋履きで参加した。

視察団は、その日一日で帰ったが、西蔵は調査を引き続き行うため、もう一人の学生と視察団を離れ、藤岡・足利・桐生と上流へ向かい、正造の「まず、現地をしっかりとつかんで来なさい」の言葉を実行し、鉍毒の被害の酷さを深く知ることが出来たのでした。

明治35年（1902年）春、「学生鉍毒救済会」が作られ、報告会、義捐金などを募った。ところが、文部大臣から「救済運動は政治運動であるから中止せよ」との命令が出され、一人減り、二人減りと、この運動も衰えたが、黒沢は蓑笠、草鞋履きで「知行合一の精神」で精力的に被害地を駆け回り集会や、路上演説などを催した。

この運動の中、3月5日、運動の反対者を訪ね、翻意させようとしたが「家宅侵入罪」で逮捕され、前橋監獄に入れられた。その苦しい生活の中、今村弁護士や潮田千勢子に支えられ、秋には出所することが出来た。

明治36年（1903年）暮れ、正造から「学校に戻り、勉強しなさい」と、勧められて学校に戻り、明治38年（1905年）3月、無事卒業した。その年の6月、「ハハ キトク スグカヘレ」と一通の電報を受け、急ぎ家に帰った。

間もなく母は亡くなり、西蔵は妹、弟の面倒を見るため、先ずは自分の生活をしっかりとさせることが大切と考え、「必ず迎えに来る」と、同年7月に北海道に渡った。以後、正造が唱えていた「健土健民」の思想を受け継ぎ、先述した様に酪農に関係する事業に従事した。また、西蔵は岩波書店に働きかけて、「田中正造の著作集」の刊行に情熱を注いだ。

最後に、正造が西蔵を如何に信頼していたことかを明かす、<sup>注1</sup> 蓼沼丈吉宛書簡（明治36年（1903年）11月24日付）がある。

「平日の言行ハ律儀、節儉ノ実行、正直、孝道あり、誠実ニして義ニ勇む事以上の如シ。これに依ってここニ正造ハ他言を要しません。何卒貴君ニハ黒澤ヲ正造ナリト思ッテ御世話下されたく、この一言を貴君ニ申上候間、何卒御心よく一人ノ男子御拵下され置きたく、謹テ願ひ奉り候。」とある。

また、この書簡に「将来学業の奨励につき御相談申上候処」とあり、京北中学校の学費について正造が蓼沼丈吉に学費の出資を依頼しており、西蔵は後に、このことを知ったと語っている。

以上、羅列して閉じさせていただきます。

（しまだ まさし／筑西市郷土史を考える会 会員）

<sup>注</sup> 本文は、私（西蔵）の履歴書引用

<sup>注1</sup> 田中正造文集（一）